

今週の富大生

# Weekly TOMIDASEI

第64号

都市デザイン学部  
材料デザイン工学科 2年  
宮城県仙台第三高等学校  
(宮城県出身)

「ものづくりの妖精」に憧れて



## 工学に進むルーツはあのディズニー映画

幼い時から工作や手を動かすことが好きでした。ディズニー映画をよくみていて、その中でも「ティンカーベル」に強く心惹かれていました。ものづくりの妖精であるティンカーベルが、たくさん失敗をしながらも、ものづくりで仲間たちを助けるシーンが大好きでした。今でもセリフを覚えているくらいです。

## 震災をきっかけに、材料を考えるように

保育園の卒園式前の集会の時に、東日本大震災が発生しました。保育園の先生も今まで見たことがないくらいに必死の表情で、幼いなりに大変なことが起こっていると感じました。今まで見ていた景色と全然違う、まさになった仙台の街を見て、唖然としました。それから月日が経ち、振り返ると、ずっと心の中で「自分に何ができるだろう」と考えていました。幼い頃憧れたティンカーベルのように、モノづくりで安心と安全を創り出し、周りの人を助けたいと考えるようになりました。日本全国の大学を調べました。国立大学で都市デザイン学部というユニークな名前と、地域に根付いたアルミの研究に特化していることを知りました。富山大学都市デザイン学部材料デザイン工学科を受験し、進学しました。

## シェアハウスfilで富山の生活スタート

前期日程のとき、両親がまちなかシェアハウスのfilのことを調べて「ここ、良さそうじゃない？」と勧めてくれました。シェアハウスは一緒に住む人がどんな人かわからないし、不安もありました。しかし、不安以上にワクワクが勝ちました。filで富山のまちなかの活動に参加する機会があることを知り、入居を決めました。初日は不安が大きかったですが、住人ともすぐに打ち解けました。大学から帰るとき、富山大橋を歩きました。橋から見える山と川がきれいで、市電が走っている風景も可愛いと思いました。「ここで頑張って行こう!」という気持ちになりました。

## 富山城址公園「城彩」イベントを企画

富山大学に進学し感じていることは、挑戦の場がしっかり用意されていることです。授業や研究の相談がしやすく、地域の人と協働でプロジェクトに参加する機会が多いです。大学の勉強をメインにして、今年は課外活動にも力を入れました。地域活動、短期留学、インターンに参加しました。中でも、filのすぐ近くにある富山城址公園の能登半島地震後の復旧を祝う「城彩」イベントは、企画の中心としてfilの住人と一緒に盛り上げました。富山に住み始めてすぐに、富山城址公園の活用方法の募集を見かけました。応募したらたまたまfilの住人も申し込んでいて、みんなで企画を進めました。企画・広報・スポンサー獲得など、初めての経験でした。



城彩イベントの様子

## お世話になった高校の先生へ

最後まであたたかく支えてくださり、ありがとうございました。授業で学んだ基礎、ノートの作り方、「まずやってみよう」の言葉は今の学びの土台になっています。これからも継続して、失敗してもあきらめずに前に進み、成果を報告できるよう頑張ります。